

祝 新成人!



館報
い
う
や
ま

平成 28 年 1 月 1 日 現在
世帯数 885 戸
男 1,010 人
女 1,080 人
総人口 2,090 人



新成人のメッセージ

この度、無事に成人式をむかえることができました。高校卒業後は進学のため、名古屋へ行くことを決めました。初めての一人暮らしや慣れない地へ行くことは大きな不安や焦りがありました。しかし、名古屋へ行ったことで精神面や社会面などで成長できたと思っており、今では名古屋に行ったことを後悔しておりません。そして、私が成人になるまで両親には多くの負担や迷惑をかけてきたと思っております。また、私には姉と兄がおり、末っ子という立場の中、多くの心配をかけてきたと思っております。今回の成人式では、自身の成長した姿を見せることで恩返しができるように思っています。成人になるまで育ててもらった両親には、深く感謝しております。

中野 魁 (原・厩所)

この度、無事成人式を迎えることができました。現在私は大学に通い、生活に密着した支援ができるような作業療法士になるために学んでいます。最後にいつも温かい目で見守ってくれている両親、祖父母には本当に感謝しています。いつもありがとう。 百瀬 葵 (舟付・宮原)



1月10日に松本市総合体育館で成人式が行われました。入山辺地区では、15名(男性8名、女性7名・住民登録上)が新成人になりました。

この度、無事に成人式を迎えることができました。もう自分が成人式に出るような年が来たと考えると感慨深いです。自分はやりたい事がなく、大学でやりたい事を見つけたためという曖昧な理由で、東京の大学に進学しました。両親は反対もせず、快く大学進学をさせてくれました。自分の事を信じてくれていて、理由も聞かずに、やりたいことをさせてくれた両親に感謝しています。これからは一人でできることを増やしていきたい、また将来なりたいものが定まっています。両親みたく人間として尊敬できる人になりたいです。

向井 慎平 (西桐原)

晴れてこの度、無事に成人式を迎えることができました。

これまでの20年間、様々な人に支えられ、多くの事を経験することができました。高校を卒業後、私は地元の短期大学へ進学しました。そこでの学生生活を終え、春からは社会人となります。大学で学び得た事を活かし、責任感を持って行動できるようになりたいです。そして、これまで育ててくれた両親に多くの親孝行をしていきたいと思ひます。

新井 スミエ (東桐原)

晴れてこの度、無事に成人式を迎えることができました。

これも今まで支えてくれた両親のおかげだと思っています。私は高校卒業後、夢を叶えるため、昔から憧れていた建築士という職業を目指し、京都の専門学校へ進学しました。学校では授業の他に建築サークルに入り、実際に有名建築家が設計した建築物を見学したり、企業に依頼された模型を作ったりと、私は副部長という立場で様々なことを学ばせて頂きました。今はまだ建築士の卵以下の自分ですが、これからまた新たに色々な経験をし、いずれは立派な建築士として名を馳せるよう日々努力したいと思ひます。そして、今までお世話になりました家族、周りの方々に感謝し、何事もまじめに取り組むよう精進していきたいと思ひます。

大輪 力也 (上手町)



入山辺文化誌を読んで

貧しい時代を

生き抜いた人々

中澤信夫

公民館活動と青年団

終戦後のドン底の中で、この貧しい入山辺を何とかしようとして立ち上がった青年たちに、百瀬城森さん、和子さん、赤澤裕吉さん、辰子さん、大澤博明さん、米子さんの名前がまず浮かんできます。その活動の原動力の一つに公民館講座があり、頻りに開いた中心人物に公民館主事の中澤敬一さん(故人)がいました。青年の心を良くつかみ、話し相手になってくれた人でした。

それともう一つ忘れてはならないのは、農文協(農山漁村文化協会)の活動です。農文協のテキストを中心に、この貧し村を何とかしようとして話し合いました。それには政治の力が必要だと、政治に積極的に参加しようとして立ち上がりました。

それと入山辺を豊かにしようとして、畜産、野菜、果樹の生産に取り組みました。

今こうして入山辺があるのも当時の青年たちが公民館活動を通して立ち上がったことが原動力になっています。

小学校の閉校舎に集まった若者達

公民館活動の中心であった青年団活動は一時下火になりましたが、再び息を吹き返したのは、昭和50年頃閉校になった小学校の校舎が若者入山辺をゆるがした「大仏ダム」「ビーナスライン」問題に取り組んだときでした。その中心になった若者は、中澤孝さん、白山佳明さん、武井茂善さん等大勢のメンバーでした。

夜を徹して議論し、その内容を文化祭で展示したり、演劇にして発表しました。それを全面的にバックアップしたのは、当時の公民館長の赤羽徳海さん(故人)でした。その青年団活動に便乗して8ミリ映画を作る「視聴覚委員会」ができ、公民館の資金援助を受け活動を続けました。そのメンバーは、柴田茂行、久保田清美、柳沢博、矢島善光(故人)、中澤信夫でした。



制作した8ミリ映画と、受賞のトロフィーと楯

8ミリ映画は「閉校」をはじめ10本以上作り上げたが、ビーナスライン問題を取り上げた青年団の活動を取り込んだ「ビーナスラインの谷間」は、映画祭で知事賞となりNHKで放映され青年団の皆で感涙しました。大仏ダムを題材に込んだ「どこへゆく故郷」は、SBC賞、東海テレビ賞を受賞し、今もDVDに残っています。公民館のバックアップがあったからこそ、大きな花を咲かせたと思います。

いま入山辺は高齢化が進み沈滞化しています。「こんな山辺にするじゃん会」などが動き出していますが、もう一度若い力で入山辺を活性化することができないものでしょうか。

三城地区に「成城学園ふるさとの森」が誕生

平成27年7月18日から9月23日まで、旧開智学校において「生誕百五十年記念特別展 澤柳政太郎とその時代」が開催されました。

澤柳政太郎は、慶応元年(1865)松本藩士の澤柳信任の長男として、北深志天白町で生まれ、開智学校から東京師範学校付属小学校に転校、明治21年東京帝国大学を卒業し文部省に入りました。



た。東北帝国大学や京都帝国大学の総長を歴任した後、民間教育家として大正6年(1917)成城小学校(幼稚園から大学まで擁する成城学園の起源)を創立し校長に就任しました。

学校法人成城学園(東京都世田谷区)では、澤柳政太郎が教育の理想とした一つである「自然と親しむ教育」の一層の推進を図るため、長野県と「県有林の利活用に関する協定」を締結し、ネーミングライツを利用して「成城学園ふるさとの森」を、入山辺三城の県有林の一部(中電の調整池跡)に設置しました。

今後は成城学園の児童、生徒、学生たちが、自然と親しむ教育のフィールド研修の場として、自然、森林、林業体験活動に活用していくことで、地元の子ども達との交流も考えているとのこと。

小学生作文



入山辺小6年 赤羽 拓美君

入山辺は里山辺ほど車がおらないので、冬に雪がふるとなかなかとけません。雪がすぐにとけないので、4年生あたりまでは雪遊びができて楽しかったです。5年生になってからは雪かきを手伝いました。はじめた時は楽しかったけれど、だんだんつかれてそのうえさむいので、たいへんだなとも思いました。

今年は去年よりも雪がふらなかったため、雪かきもすこしですんで、雪かきしない分ゆっくりできて良かったです。

しかし、雪がふらなくても地面は水ついているところがあります。雪がふると氷ついている場所が見えなくなり、こぼそうとこわいので、こういうところは雪かきをして気をつけたいです。

もし、うしろにころんでもリュックやランドセルがあるとクッションがわりになってすこし安心することもあります。

今年一度水ですべてころんでしまい、手もひいていたかった思い出があります。